

令和7年度事業報告

1. 防錆に関する調査研究を行う事業

1.1 防錆防食材料部会（部会長 中部キレスト㈱ 諸岡祐弥殿）

防錆防食材料部会は、23社、27名の会員により次の事業を行った。

(1) 部会事業

令和7年7月31日、機械振興会館において令和7年度防錆防食材料部会総会を開催するとともに「V I A試験における研磨布紙、評価用鋼材種および試験条件の違いによる影響について」(株)イーパック 會田敬三殿及び「KD輸送時における防錆油剤・気化性防錆防食材料の適用事例」日本パーカライジング㈱ 元木伸治殿の講演会並びに懇親会を開催した。

(2) 防錆油剤分科会（分科会長 日本パーカライジング㈱ 元木伸治殿）

令和7年7月31日に分科会を開催したほか、12月3日～5日に開催された「2025洗浄総合展」の当協会ブースに「防錆管理士」資格を持った技術相談員を派遣し、来場者からの相談に応ずるとともに防錆油剤等の広報に努めた。

また、JIS K 2246 防せい(錆)油改正原案の答申後、(一財)日本規格協会からの内容確認に対応した。

(3) 気化性防錆材料分科会（分科会長 中部キレスト㈱ 諸岡祐弥殿）

令和7年4月25日並びに7月31日に分科会を開催したほか、12月3日～5日に開催された「2025洗浄総合展」の当協会ブースに「防錆管理士」資格を持った技術相談員を派遣し、来場者からの相談に応ずるとともに気化性防錆材料等の広報に努めた。

また、ISO TC156（金属及び合金の腐食）（ステンレス協会担当）、ISO18717「防錆材料の性能試験方法」のISO18717-1「気化性防錆性試験（案）」の規格作成について協力した。

(4) 被覆防食材料分科会（分科会長 北日本防食㈱ 中川浩二殿）

令和7年7月31日に分科会を開催し、JIS Z 1902（ペトロラタム系防食テープ）、JIS Z 1903（ペトロラタム系防食ペースト）の5年見直しの検討を行った。

(5) 自動車用化学製品分科会（分科会長 ショーワ㈱ 安田 力殿）

自動車用化学製品分科会は、部会事業に協力した。

1.2 溶射部会（部会長 元海上技術安全研究所 植松 進殿）

溶射部会は、防錆防食溶射の施工技術並びに皮膜品質の向上を図ることを目的に活動を行った。

1986年（昭和61年）に千葉県の子倉町で開始した鋼管の暴露試験は、2025年（令和7年）5月で39年を迎えた。これまでの成果として、令和6年7月開催の第44回防錆防食技術発表大会では、「36年間暴露したZn溶射鋼管の皮膜組成変化と防錆効果」についての発表を行った。また、溶射の補修を考慮して施工した溶射被膜に白さびの発生が確認でき始めたため、

さびがどの程度内部に発生しているのか、この発生は、溶射被膜の密着性に影響を与えているのではないかととの観点から、密着性の評価を実施した。

また、二層溶射であるため、異種金属の界面において腐食が進行している場合には、密着性の低下があるのではないかととの予想をたて試験を実施した。その後、解析方法の検討を進め、第一高周波工業㈱において、溶射被膜の付着性試験を行い、溶射被膜により付着力に差が見られたことから、継続して暴露している溶射バンドについて、付着試験を実施し、この結果を、第46回防錆防食技術発表大会で発表を予定した。

2. 防錆に関する技術者の養成を行う事業

2.1 防錆技術学校

(1) 第65回防錆技術学校

第65回防錆技術学校（施設防食科、防錆塗装科、防錆塗装科別科、めっき科、防錆包装科の5科で構成）は、経済産業省、国土交通省、日本商工会議所の後援を受けて、広く産業界より受講者を募り、241名の受講者を迎えて令和7年4月1日に開校した。

1年間の教育は、通信による教育と講師による直接指導を行い、基礎内容の理解を助ける学習指導は、5月に東京、大阪で実施し、専攻科の理解と共に最新情報を提供する面接講義は9月に大阪、10月に東京で実施した。また、面接講義では、実力判定のための筆記試験、面接講義時の理解度確認試験を行った。

専攻科目終了時には、学習の集大成である防錆管理士認定論文についての審査、添削問題の及落判定会議を経て、227名の修業者並びに225名の防錆管理士資格者を認定した。

その結果、創設以来の修業者総数は17,575名、防錆管理士総数は17,370名に達した。

第65回防錆技術学校 修業・認定者数

専攻科	受講者数	修業者数	管理士認定者数
施設防食科	61	58	58
防錆塗装科	97	90	89
防錆塗装科別科	35	34	33
めっき科	30	29	29
防錆包装科	18	16	16

令和8年3月6日に開催した修業式は、経済産業省のご臨席のもと藤田 栄会長より修業証並びに防錆管理士認定証の授与を行った。

また、成績優秀者に対し最優秀賞（5名）、優秀賞（19名）、優秀論文賞（15名）を贈り表彰した。

修業式の式典に先立ち、優秀論文の中から「沿岸部の塗装の早期剥離の原因調査と改善」日本ゼオン㈱ 岩田和樹殿（施設防食科）、「塗装試験板の大気暴露試験」（一財）日本ウェザリングテストセンター 砂川 桂殿（施設防食科）の2編の論文発表を行った。

(2) 防錆技術学校教材

防錆防食技術が広範囲にわたる技術であることから、防錆管理士としては最新情報及び受講科以外の技術情報を習得する必要があるため、月刊技術誌「防錆管理」を副教材として配布した。

また、防錆包装科及びめっき科の教科書の見直しを行い、第65回より改定した教科書を配布した。

2.2 防錆管理士会（会長 ㈱竹中工務店 長谷川完殿：会員数 304名）

防錆管理士会は、国内に5支部を置き次の事業を行った。

(1) 本部事業（幹事長 日本大学 酒井哲也殿）

防錆管理士会は、令和7年6月5日に機械振興会館（東京）において令和7年度通常総会並びに記念講演会を東日本支部の企画により開催した。記念講演は、「AI（人工知能）と未来」 京都橘大学 教授 松原 仁殿、「通信設備の劣化と防食技術の動向」 東日本電信電話㈱技術協力センタ 大木翔太殿の講演と併せて懇親会を開催し、会員相互の交流を深めた。

(2) 東日本支部（支部長 キレスト㈱ 川村一隆殿）

東日本支部は、防錆管理士会の令和7年度通常総会、記念講演会並びに懇親会を企画・運営したほか、令和8年2月18日に「洋上風力発電の動向と要素技術、防錆技術への期待」（一社）風力発電協会 松信 隆殿ほか1件の講演会を開催した。

また、令和8年1月23日に協会と共催で「長大橋の防食と維持管理 ―明石海峡大橋の30年とこれから―」 本州四国高速道路ブリッジエンジニア 北村岳伸殿ほか1件の新春講演会を開催した。

(3) 東海支部（支部長 ㈱興和工業所 田中暢彦殿）

東海支部は、令和7年12月8日に㈱グリーンエナジー津 津バイオマス発電所の見学会を開催した。

(4) 西日本支部（支部長 キレスト㈱ 山崎哲男殿）

西日本支部は、令和7年6月12日に山陽特殊製鋼㈱の見学会と「3Dプリンター用金属粉末」 山陽特殊製鋼㈱ 相川芳和殿の講演会を開催したほか、令和8年3月18日には「ブラスト処理の現状と課題」 ㈲宮寄塗装工業 宮寄 香殿ほか1件の講演会を開催した。

(5) 九州支部（支部長 ㈲宮寄塗装工業 宮寄 香殿）

九州支部は、令和7年11月26日に熊本城ホールにて「クイックデッキ」&熱収縮養生シート「クイックラップ」 ㈱日綜産業 川田有紀殿ほか1件の講演会を開催した。

(6) 沖縄支部（支部長 ㈱エムテック 宮城 肇殿）

沖縄支部は、協会沖縄支部並びに（公社）腐食防食学会と共催で令和7年11月28日に「九州におけるブラスト施工と今後の動向」 ㈲宮寄塗装工業 宮寄 香殿など2件の講演会及び懇親会を開催した。

3. 防錆に関する日本産業規格及び国際規格の制定及び普及に協力する事業

3.1 国際規格

(1) ISO/TC35/SC12

塗装、溶射、ライニングの下地として活用されるブラスト法についての国際規格ISO/TC35/SC12（塗料及び関連製品を塗装する前の素地調整）の対応を行うため国内委員会（委員長 日本大学 酒井哲也殿、副委員長 国立研究開発法人土木研究所 富山禎仁殿）を組織し、24名の委員構成で対応した。

ISO/TC35の国際会議は、(一社)日本塗料工業会（東京塗料会館）で令和7年6月11日～19日に開催され、この期間中、SC12/WG2（表面清浄度の試験方法）は6月12日、SC12/WG3（処理方法）が6月11日、WG4（研削材）が6月11日、SC12が6月13日にそれぞれ開催された。日本からの国内委員会を含めた出席は、WG2は7名、WG3は6名、WG4は2名、SC12は7名であった。本年の会議では、WG2では、CD 8501-1「第1部：未塗装鋼材および旧塗膜除去後鋼材のさび等級および素地調整等級の視覚的評価」写真集の改定が討論され、WG3では、WD 8504-6「レーザーの表面処理方法及び清浄化並びに使用法」は、様々な意見が出され、具体性がない内容となり、WG4では、「スポンジブラスト」プロジェクトリーダーの積極的な参加がない場合には、規格から除外することに、「クロムスラグ」は、6価クロムが問題になることが指摘された。

SC12では、ISO/PWI 8503-5（レプリカテープ法）は、再出発し、ブリストルブラスターは、機械的工具処理として分類された。

国内委員会からの投票は、メールによる意見聴取を行いながら、WG（作業グループ）投票が1件、WDS（作業原案確認）投票が1件、CIB（委員会内）投票が1件、CD（委員会原案）投票が7件、DIS（国際規格案）投票が4件、FDIS（最終国際規格）投票が3件、SR（定期見直し）投票が9件、DTR（技術報告書草案）投票が1件、合計26件の投票を行った。

ISO TR5503「素地調整後の表面の目に見えない残渣と不動態化」が討議され、不動態化と電気伝導度測定結果が誤った結果となる場合があるため、初期研削材使用後の素地の目に見えない残渣としてTRとして出版されることとなる。

(2) ISO/TC156 WG18

令和4年より、ISO/TC156（金属及び合金の腐食）WG18（一時的な腐食防止）の対応を行うために当協会内にWG18国内委員会（委員長 日本大学 酒井哲也殿）を組織し、JISに対応を行える組織体制を整えるため、気化性防錆材料分科会より12名及び使用者、中立機関を含め計18名の委員構成で委員会を組織した。

ISO18717「防錆材料の性能試験方法」のISO18717-1「気化性防錆性試験」の投票が行われ、令和5年3月にNPが承認されたが、その後、動きがなかった。令和6年6月24日の国際会議は、中国 西安で開催され、日本からは、国内委員会から対面で1名、WEBで5名が参加した。ラウンドロビンを実施することを条件にCDへの移行を承諾した。その後、8月8日に日本-中国で二国間会議を行い、ラウンドロビンの内容などについて検討を

おこなった。8月25日には、4か国協議が行われ、その後、4回webで会議が開催された。

3.2 日本産業規格

JIS K 2246 防せい(錆)油改正原案作成委員会(委員長 元日本大学 竹島正博殿)を組織し、防錆油剤分科会より3名及び使用者、中立機関を含め計14名の委員構成で(一財)日本規格協会の援助を受け組織し、令和6年3月31日をもってJIS K 2246 防せい(錆)油の改正案を答申し、その後、修正を経て、令和8年1月20日付けで発行された。

また、(一財)日本規格協会が編集発行する日本産業規格、JIS K 3151:1996「塗装下地りん酸塩化成処理剤」、JIS Z 0103:1996「防せい防食用語」、JIS Z 0305:1998「鉄鋼の化学的清浄方法」、JIS Z 0320:1997「銅及び銅合金用気化性腐食抑制剤」、JIS Z 0321:1997「銅及び銅合金用気化性腐食抑制紙」、JIS Z 1708:1976「塗装形可はく性プラスチック」、JIS Z 1902:2022「ペトロラタム系防食テープ」、JIS Z 1903:2016「ペトロラタム系防食ペースト類」の見直し作業を行い、JIS K 3151:1996「塗装下地りん酸塩化成処理剤」及び JIS Z 0305:1998「鉄鋼の化学的清浄方法」の修正が必要な状況を報告した。

(一財)日本規格協会発行の「金属表面処理JISハンドブック」の編纂委員会に委員を派遣し、当協会が原案を作成したJIS規格の編集を中心に協力した。

4. 防錆に関する参考図書及び資料を作成し、又はこれを配布する事業

4.1 機関誌「防錆管理」

月刊技術誌「防錆管理」の編集委員会(編集委員長 JFEテクノリサーチ㈱ 村瀬正次殿、副編集委員長 (一社)日本塗料工業会 大澤隆英殿)は、分野別専門家18名の委員で構成し、12回の編集委員会で検討を重ねながら、69巻4月号から70巻3月号までの12号を発行した。なお、令和7年度もWebと会議室のハイブリッド方式で委員会を開催した。

現在、基礎的な内容が薄れる傾向にあるため、編集委員会では、分野ごとの基礎知識シリーズとして、表面処理、防錆油、気化性防錆剤、鉄鋼、塗料・塗装など分野別に記事の掲載を進めている。

「防錆管理」は、防錆防食技術が、学問分野でも幅広く、使用される分野でも広いため、様々な分野の防錆防食技術のテクニカルレポート、解説を掲載し、会員相互の情報交換の場としての役割を担っている。

4.2 書籍販売

現有14タイトルの書籍販売に努めた。

5. 防錆に関する文献、資料及び情報の収集を行い、これを閲覧に供する事業

5.1 防錆防食技術発表大会

第45回防錆防食技術発表大会実行委員会(実行委員長 鹿児島大学 審良善和殿、副委員長 日本製鉄㈱ 菅江清信殿)は、専門分野ごとの委員20名で構成し、令和7年7月3日、4日の2日間、東京・五反田の「シティーホール&ギャラリー五反田」において231名の参加者を得て開催した。

特別講演は、「ケルビンプローブによる電気化学測定法について」JFEスチール㈱ 鹿

毛 勇殿、「技術者を中心とした腐食・電気防食技術の歴史変遷」防食・補修工法研究会 柏木達夫殿の2件を、「いまさら聞けない用語」は、「化成処理」日本パーカライジング(株) 中山隆臣殿に講演いただくとともに、技術発表27件、製品・施工技術発表 3件、ポスターセッション5件が発表された。なお、防錆技術学校優秀論文賞受賞者からの投稿として1件が発表された。

また、映画は「東京湾の発展を支える海底トンネル工事記録ビデオ」を上映した。

若手技術者優秀発表賞は、39才以下の方を対象に、事前登録された発表者に対して、発表手法を主に審査を行い、一般発表では、「塩害環境下における繰り返し载荷を受ける塗装鋼材の耐食性に関する実験的検討」鹿児島大学大学院 武中宏樹殿、「乾湿繰り返し環境における金属の腐食とその部位の表面電位分布からの予測」旭川工業高等専門学校 河村風花殿、「高温高湿処理による Al 材料の表面特性評価と耐食性向上」旭川工業高等専門学校 山口真歩殿、「脱酸素雰囲気にある水道水中におけるSUS、Cu、Fe、Zn、Alの電位序列」新菱冷熱工業(株) 松元美里殿、「PVB-S被覆鉄筋のコンクリート中における劣化機構の解明と防食効果」(株)大林組 富吉陽斗殿の5名を、今年度から開始したポスター発表では、「海洋鋼構造物に適用される重防食被覆工法の劣化損傷部に対する補修対策法に関する一検討」鹿児島大学 鬼塚菜摘様の1名を表彰した。

5.2 インターネットによる情報の提供

当協会活動状況の情報公開は、<https://www.jaccl.or.jp> に事業報告・収支決算書、事業計画・収支予算書を掲載したほか、防錆技術学校、防錆防食技術発表大会、出版物、支部行事、各部会、防錆管理士会行事の紹介をした。

6. 防錆に関する参考材料の展示を行う事業

6.1 2025洗浄総合展

令和7年12月3日～5日の3日間、東京ビックサイトにおいて開催された「2025洗浄総合展」(主催 日本産業洗浄協議会、日刊工業新聞社ほか)に特別協賛するとともに、2小間の展示ブースの提供を受けて当協会の活動紹介、防錆技術学校の広報、出版物販売、防錆技術啓蒙資料の展示のほか、防錆防食材料部会の協力を得て防錆技術相談会を行った。

3日間の来場者数は44,301名であった。

6.2 防錆防食技術発表大会カタログ展示コーナー

令和7年7月3日、4日の2日間、シティーホール&ギャラリー五反田において開催された第45回防錆防食技術発表大会の会場に「製品展示コーナー」並びに「カタログ展示コーナー」を設置し、会員並びに来場者に技術情報の提供を行った。

7. 防錆に関する技術相談を行う事業並びに研究の受託及び委託を行う事業

令和7年度の依頼案件は1件であった。

8. 防錆に関する技術向上のため発明、研究に対する顕彰を行う事業

令和7年度の該当事業はなかった。

9. 防錆に関する事項について国会、政府その他に対し意見を開陳する事業

国土交通省から「公共工事標準仕様書 令和7年版」の改定について意見を求められたので、これに対応した。

10. 本会の目的を達成するために必要な事業

10.1 本部事業

- 総 会 令和7年6月11日、機械振興会館において定時社員総会を開催した。
- 理事会 令和7年5月22日、11月19日、令和8年3月24日に機械振興会館において通常理事会を、6月11日に臨時理事会をそれぞれ開催した。
- 講演会 令和8年1月23日、東京ガーデンパレスにおいて防錆管理士会と共催で、「洋上風力発電の動向と要素技術、防錆技術への期待」（一社）風力発電協会 松信隆殿ほか1件の講演会を開催した。
- 交歓会 令和8年1月23日、東京カーデンパレスにおいて「令和8年新春のつどい」を開催した。

10.2 支部事業

中部支部、関西支部並びに沖縄支部の3支部は、それぞれ地域の防錆防食技術の向上と普及に努め、地域経済の発展に大きく貢献した。

(1) 中部支部（支部長 名古屋大学 市野良一殿）

- 総 会 令和7年7月14日、あいち産業科学技術総合センター産業技術センターにおいて通常総会を開催した。
- 幹事会 令和7年7月14日、あいち産業科学技術総合センター産業技術センターにおいて幹事会を開催した。
- 講演会 令和7年7月14日、令和8年2月26日に講演会を開催し、「淡水系におけるステンレス鋼の腐食事例と対策」ステンレス配管研究会 山手利博殿など4件の講演を実施した。

(2) 関西支部（支部長 山崎政彦殿）

- 総 会 令和7年5月23日、難波市民学習センターにおいて通常総会を開催した。
- 幹部会 令和8年1月16日、難波市民学習センターにおいて幹部会を開催した。
- 幹事会 令和7年5月23日、8月1日、令和8年2月19日難波市民学習センターにおいて幹事会を開催した。
- 講演会 令和7年5月23日、7月18日、7月29日、10月3日に講演会を開催し、「自動車用塗料の現在と将来～持続可能な技術革新に向けて～」関西ペイント(株) 宮里悠也殿など4件の講演を実施した。
- 見学会 令和7年7月29日に「大阪ガス実験集合住宅 NEXT21」、10月3日に「モリタATI センター」の見学会を開催した。
- 講習会 令和7年9月19日、12月4日に大阪産業技術研究所和泉センターにおいて「いまさら聞けない金属腐食と電気化学の基礎(講習と実習)」を開催した。

(3) 沖縄支部（支部長 琉球大学 押川 渡殿）

総 会 令和7年7月18日、琉球大学工学部において通常総会を開催した。

幹事会 令和7年7月18日、琉球大学工学部において幹事会を開催した。

講演会 令和7年11月28日、琉球大学工学部において講演会を開催し、「化学会社と四方山話」キレスト(株) 林 峰啓殿など2件の講演を実施した後、懇親会を開催した。

10.3 関係省庁及び関係団体との協力事業

関係省庁及び関係団体の要請により延9件の委員等を派遣した。

議長は、本議案について意見を求めたところ意義なく、出席者全員及び書面評決者全員の賛成により、了承された。

第2号議案 令和7年度財務諸表の承認について

第69期 貸借対照表（ 頁）

第69期 収支計算書（ 頁）

議長は、本議案について意見を求めたところ意義なく、出席者全員及び書面評決者全員の賛成により、承認可決された。

第3号議案 令和8年度事業計画及び同収支予算書の報告について

令和8年度 事業計画

1. 防錆に関する調査研究を行う事業

1.1 防錆防食材料部会

防錆防食材料部会（部会長 中部キレスト(株) 諸岡祐弥殿）は、正会員のなか、防錆油剤、気化性防錆材料、ペトロラタム系防食テープ、自動車用ケミカル用品の生産者、取扱者で組織する会で、それぞれ防錆油剤分科会、気化性防錆材料分科会、被覆防食材料分科会、自動車用化学製品分科会の4分科会で構成されている。

それぞれの分科会は、専門分野に関連する調査研究を実施すると共に、協会の事業である防錆技術学校、「防錆管理」編集委員会、防錆防食技術発表大会、2026洗浄総合展などに積極的に協力するほか各分科会に共通するテーマについての技術講演会を開催したい。

また、協会が設置したISO TC156（金属及び合金の腐食）ISO18717（防錆材料の性能試験方法）NP18717-1（気化性防錆性試験）国内委員会に当該製品取扱い企業として協力したい。

1.2 溶射部会

溶射部会（部会長 元海上技術安全研究所 植松 進殿）は、防錆防食溶射の施工技術並びに皮膜品質の向上を図ることを目的に活動するとともに、1986年（昭和61年）に開始した溶射鋼管の暴露試験を継続し、39年目、8年目を迎える追加溶射鋼管及び2001年に補修

を施した溶射鋼管についても試験を継続し、経過観察を行いたい。そして、第44回防錆防食技術発表大会で発表した内容を広げ、「Zn被膜（Zn合金系を含む）の腐食生成物がZn系被膜の防食性に及ぼす影響」として「防錆管理」で発表したい。

また、講師を招いて溶射皮膜の評価法、施工事例などのセミナーを企画、開催したい。

2. 防錆に関する技術者の養成を行う事業

2.1 防錆技術学校

防錆防食専門技術者を養成するため、通信教育「第66回防錆技術学校」を経済産業省、国土交通省、日本商工会議所の後援を得て実施したい。

教育の内容は、専門分野別に施設防食科、防錆塗装科、防錆塗装科別科、めっき科、防錆包装科の5科で構成し、講師には産学官界より有識者77名を迎えて開講したい。

教育日程は、以下のとおり実施したい。

(1) 通信教育

共通課程 令和8年4月～令和8年7月

専攻課程 令和8年7月～令和9年2月

(2) 学習指導

東京会場 令和8年5月13日

大阪会場 令和8年5月15日

(3) 面接講義

大阪会場 令和8年 9月 3日～ 4日

東京会場 令和8年10月 1日～ 2日

(4) 筆記試験

大阪会場 令和8年 9月 3日

東京会場 令和8年10月 1日

(5) 認定論文 令和8年11月～令和9年 1月

(6) 修業式 令和9年 3月 5日

学習教材については、前年度に引き続き共通課程、専攻課程ともに最新技術を盛り込む改訂作業を行い、内容の充実をはかりたい。

2.2 防錆管理士会

防錆管理士に認定された方々で組織する防錆管理士会（会長 ㈱竹中工務店 長谷川 完殿、幹事長 日本大学 酒井哲也殿）は、東日本、東海、西日本、九州、沖縄の5支部で、講演会、見学会等の行事を開催しており、令和8年度も、積極的に計12回の行事を実施したい。

また、防錆管理士会総会を令和8年5月29日（金）、名古屋において開催したい。

3. 防錆に関する日本産業規格及び国際規格の制定及び普及に協力する事業

3.1 国際規格

(1) ISO/TC35/SC12

ISO（国際標準化機構）/TC（専門委員会）35（ペイント及びワニス）/SC（分科会）12（塗料・関連製品施工前の鋼材の素地調整）にかかわる国際規格は、1993年（平成5年）より担当しているが、引き続き、TC35/SC12国内委員会（委員長 日本大学 酒井哲也殿、副委員長 独立研究開発法人土木研究所 富山禎仁殿）を組織しISO回答原案を作成するとともに、6月15日～17日にデンマークで開催される国際会議に協力したい。

なお、レーザー処理は、仕上がりが不安定なため、より良い施工ができるように検討したい。

(2) ISO/TC156 WG18

ISO TC156（金属及び合金の腐食）（ステンレス協会担当）、ISO18717「防錆材料の性能試験方法」のNP18717-1「気化性防錆性試験」では、引き続き、当協会に国内委員会を設置し、ステンレス協会に委員を派遣するとともに、ISO動向に対応したい。

3.2 日本産業規格

当協会が担当しているJISについて見直しを検討し、（一財）日本規格協会に報告するとともに、必要に応じ、（一財）日本規格協会の公募制度を活用して当協会内にJIS改正原案作成委員会を組織して改正原案の作成を行いたい。

また、（一財）日本規格協会並びに関係団体が主催する防錆技術に係わる標準化委員会に委員を派遣したい。

4. 防錆に関する参考図書及び資料を作成し、又はこれらを配布する事業

4.1 機関誌「防錆管理」

機関誌「防錆管理」は、有識者と各専門部会の代表者並びに協会支部の代表者で構成する編集委員会（委員長 JFEテクニカルリサーチ㈱ 村瀬正次殿、副委員長 （一社）日本塗料工業会 大澤隆英殿、編集アドバイザー 井上 学殿）の企画編集により、第826号から第837号まで毎月発行し、防錆防食の専門分野ごとの「報文」「テクニカルレポート」と「解説」、「専門講座」、「防錆防食文献リスト」、「見学記」、「Q&A」並びに「表面処理の基礎知識」を掲載するなど、我が国の防錆技術向上に資する専門技術誌を発行したい。

また、防錆技術学校の専攻科について教材の改訂内容を「防錆管理」に掲載し、防錆管理士資格取得後のフォローを行いたい。

月刊技術誌「防錆管理」は、国公立研究機関、公設図書館、関係学協会などへ無償配布し、防錆技術の啓蒙活動に役立てたい。

4.2 書籍販売

昨年、機関誌「防錆管理」に連載した講座を再編集して発行した「各種金属部品に適用する防錆油」出光興産㈱ 長瀬直樹殿の拡販に努めるほか、「わが国における腐食コスト報告書」などの既存の出版物の拡販にも努力したい。

5. 防錆に関する文献、資料及び情報の收集整理を行い、これを閲覧に供する事業

5. 1 防錆防食技術発表大会

防錆防食技術発表大会実行委員会（委員長 鹿児島大学 審良善和殿、副委員長 日本製鉄㈱ 菅江清信殿）を組織し、令和8年7月2日、3日の二日間、東京・五反田「シティホール&ギャラリー五反田」において「第46回防錆防食技術発表大会」を開催したい。

技術発表、腐食事例と対策、特別講演「維持管理に係わる地盤工学的課題」（一財）沿岸技術研究センターほか1件、いまさら聞けない用語「腐食の宝庫・文化財から紐解く」日鉄テクノロジー㈱ 渡邊綾子殿のほか、事例発表を集め、生産技術、メンテナンス、新施工法などの幅広い内容で研究者・技術者に対し、発表・聴講の場を提供し、広く防錆防食技術の発展普及に努めたい。

また、「製品の展示会」を行うとともに、より、実務に応じた内容としたい。

大会の広報は、ダイレクトメール、ホームページ並びに機関誌の会告欄を通じて広範な分野の技術者、研究者に通知するほか、38の関係団体の協賛を得て各団体を通じての広報にも努めたい。

また、技術発表で優秀な発表に授与する「若手技術者優秀発表賞」は、若手技術者の発表者（40歳未満）の活動をけん引するとともに、昨年開始した「ポスター発表」を推進するとともに、ポスター発表で優秀な方には、優秀発表賞を授与し、技術者の育成に貢献したい。

5. 2 インターネットによる情報の提供

ホームページ（<http://www.jacc1.or.jp>）の内容をリニューアルしながら、引き続き以下の情報を公開し、会員サービス、社会貢献を行いたい。

(1) 事業報告、収支決算書及び事業計画、収支予算書

(2) 協会事業

- ① 防錆技術学校の案内
- ② 防錆防食技術発表大会の案内
- ③ 講演会、見学会など行事の案内
- ④ 出版物の案内
- ⑤ 防錆管理士資格者の所在不明者調査
- ⑥ その他

6. 防錆に関する参考材料の展示を行う事業

第46回防錆防食技術発表大会において、新製品・施工技術の紹介を行うセッション、製品展示コマを設け、実務に即した内容にするとともにカタログコーナーを設置し、会員をはじめとする企業の製品、技術の最新情報を大会来場者に提供したい。

また、日本産業洗浄協議会、日刊工業新聞社ほかが共催する「2026洗浄総合展」（令和8年11月18日～20日 東京ビックサイト・東ホール）では、展示小間の提供をうけて出品をしたい。

出品内容は、協会事業の広報並びに防錆防食技術の啓蒙展示を実施するとともに、防錆

技術相談コーナーを会員会社の協力を得て設置し、来場者の相談に応えたい。

7. 防錆に関する技術相談を行う事業並びに研究の受託及び委託を行う事業

会員からの防錆防食に関する試験依頼を受託し、これに応えたい。また、会員からの技術相談にも応じたい。

8. 防錆に関する技術向上のための発明、研究に対し顕彰を行う事業

次の賞のほかに、会員から候補を募り推薦したい。

- (1) 一般財団法人 機械振興協会（新機械振興賞）

9. 防錆に関する事項について国会、政府その他に対し意見を開陳する事業

「公共建築工事標準仕様書」（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）ほかの仕様書並びに技術指針の改正に際し、政府関係機関から改正意見を求められた場合、これに応えたい。

その他必要に応じ、防錆技術に関する意見を政府その他の機関に対し、開陳してゆきたい。

10. 本会の目的を達成するために必要な事業

10.1 支部事業

中部支部、関西支部、沖縄支部の3支部がそれぞれの地域の特徴を生かし、それぞれの支部の総会で議決された事業計画に基づき、講演会、講習会、見学会などの各種事業を実施したい。

10.2 関係学協会との協力事業

- (1) 関係学協会が主催する防錆防食技術関連の行事を協賛又は共催し、広く産業技術の発展に寄与したい。

- (2) 関係学協会が主催する委員会等に役職員を派遣して協力したい。

- ① （一財）日本ウエザリングテストセンターに評議員を派遣したい。

- ② （一財）日本塗料検査協会に監事を派遣したい。

- ③ ステンレス協会のISO/TC156（金属及び合金の腐食）対策委員会に委員を派遣したい。

- ④ （公財）スガウエザリング技術振興財団のJIS Z 2371（塩水噴霧試験方法）改正原案作成委員会に委員を派遣したい。

- ⑤ （一社）日本塗料工業会のJIS K 5600-2-7（塗料一般試験方法—第2部：塗料の性状・安定性—第7節：貯蔵安定性）ほか3件のJIS原案作成委員会に委員を派遣したい。

第 7 0 期 収 支 予 算 書 (頁)

議長は、本議案について意見を求めたところ意義なく、出席者全員及び書面評決者全員の賛成により、了承された。

第 4 号議案 令和 8 年度理事の選任について

役員の退職並びに異動により、退任理事 3 人が生じた。

については、次の候補者 3 人を令和 8 年度理事に選任したい。

令和 8 年度理事候補者 (敬称略・氏名五十音順)

N T T 東日本 株式会社 ネットワーク事業推進本部 サービス運営部 技術協力センタ 所長

大 串 幾太郎

日本カニゼン 株式会社 執行役員 技術部長兼研究開発室長

長 尾 隆 司

関西ペイント 株式会社 建設塗料本部 建設塗料技術部 部長

村 本 龍 介

議長は、本議案について意見を求めたところ意義なく、出席者全員及び書面評決者全員の賛成により、理事候補者全員が選任された。